

2017 年度刊行の書籍等

- 『ちひろと歩く信州』安曇野ちひろ美術館・編（新日本出版社）
 『ちひろを訪ねる旅』竹迫祐子・著（新日本出版社） 1
 『いつも笑顔で あの戦争と母の言葉』海老名香葉子・著 いわさきちひろ・絵（新日本出版社）
 『いわさきちひろ 子どもへの愛に生きて』松本猛・著（講談社） 2



2018 年経過報告

- 2018年7月14日～9月9日
 東京ステーションギャラリー「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」 1
 9月15日～11月11日 台北誠品R79中山地下書街 誠品書店×ちひろ美術館 2
 安曇野ちひろ公園 トットちゃん広場にできたフォトスポット 3



■2018年8月25日「支援会員の日」報告

支援会員のみなさまをお招きし、日頃ご支援いただいている私たちの活動全体を知っていただくために「支援会員の日」を開催しました。午後は、ちひろが師事した岡田三郎助といわさきちひろについて、佐賀県立博物館の野中耕介学芸員にご講演をいただき、続けて2017年度の活動報告を行いました。出席者のみなさんからは「いつきてもホッとする美術館であってほしい」「茶話会形式の交流会にしてほしい」「安曇野ツアーはないのか?」「海外への展開に期待する」「せっかくよい活動をしているのに、アピール力が足りない」など、ご質問やご意見をお寄せいただきました。



■ボランティア活動

2018年度、展示会の魅力を来館者に伝えるボランティアを東京と安曇野の両館で公募しました。おかげさまで支援会員の方も含めてご応募いただいたみなさまに、それぞれご都合のよい時間帯で活動をお願いし、来館者にもとても好評です。今後の募集につきましては、美術館だよりやホームページでお知らせいたします。

■寄付者一覧

2017年4月1日～2018年3月31日の期間中、寄附者のなかから、お名前の公表をご許可くださった皆さまをご紹介します（敬称略・五十音順）。
 相澤 裕子、赤澤 香恵、秋吉 順子、浅沼 紀子、荒井 映莉花、安藤 清貴、生駒 慎一、井佐 恵子、石井 鈴子、伊関 美奈子、井土 都貴子、伊藤 美智子、伊藤 幸一、伊藤 昭彦、岩畔 幸子、榎田 浩二、上田 敏夫、浦西 陽子、榎本 裕一、大島 和枝、太田 美保子、大谷 真知子、大野 網枝、岡 敏子、岡田 早智子、岡本 育子、小川 澄子、奥村 俊博、小山西 美江子、小田 悦子、尾鷲 誠、垣東 広美、柏 いつ、片倉 敬彦、嘉戸 秀美、加藤 建、鎌谷 雄樹、神澤 千尋、上条 啓一、河田 茜、川俣 治之、喜入 晴美、菊地 淳一、菊地 勝幸、菊地 則好、木田 征嗣、工藤 貴史、熊田 眞代、倉科 嘉夫、栗原 真知子、黒岩 淑子、木暮 正行、小佐井 留美、越川 恵美子、小島 尚子、小平 恵子、小平 彩見、後藤 忠昭、虹釜 和昭、小林 克知、小松 宏江、小松 寛之、小柳 ひろ子、齊藤 淳、齋藤 立、佐伯 めぐみ、坂口 睦男、坂田 佳美、相模 一男、岸 とも子、佐治 千里、佐藤 博子、佐藤 忠、鮫島 広美、澤 太郎、澤田 淑子、澤野 洋子、信太 明男、清水 信江、下野戸 亜弓、白神 多恵子、辛 丹淑、進藤由紀子、神保 和子、杉田 尚子、鈴木 真寿子、鈴木 賢二、鈴木 こそえ、鈴木 誠、砂田 規之、関 省吾、千田 幹雄、園部 倫理、染田 正広、征矢野 久、高橋 美智子、高橋 節子、高橋 英子、高橋 俊文、高山 千津子、瀧口 恵子、田口 弘美、武田 登志子、田澤 誠、太刀川 久夫、立松 房枝、田中 美恵子、種村 初江、田畑 裕子、田村 裕子、田村 博康、田村 健、近松 美喜子、土田 忠敬、坪田 慶子、中川 薫、中島 啓幸、中島 和枝、中西 時夫、中村 収、中村 由美、中村 秀雄、難波 伸子、西尾路子、西尾 泰広、西村 修、新田 恵子、仁平あけみ、野崎 五郎、橋村 孝子、畠山 隆司、馬場 潤、原田 聖子、樋口 美和、藤生 よし子、藤田 誠、古川 正巳、古旗 文夫、木多 孝子、木多 淳子、本間 久幸、前田 直美、益川 洋子、松浦 泰二、松本 恭子、丸山 鈞、水野 敬子、宮下 和也、宮地 輝子、向原 真一、宗本 哲司、村上 耕平、村田 久留美、村田 弘之、村田 真理子、村松 敏夫、森 浩美、森島 仁、森本 哲、柳下 昭夫、山内 幸三、山浦 英樹、山口 智徳、山下 昭美、山田 久夫、山元 寿美代、山本 恵子、油井 光恵、湯谷 信子、横須 賀章江、芳岡 伸行、吉岡 正俊、渡辺 法生

この一年間、公益財団法人いわさきちひろ記念事業団、ちひろ美術館の支援会員として、私たちの活動を支えてくださり、ありがとうございました。

■公益財団法人いわさきちひろ記念事業団は、次のような目的をもって活動しています。

子どものしあわせと平和を願いつづけた絵本画家いわさきちひろの業績を記念し、文化の民主的・多面的発展に寄与する活動をおこなう。
 散逸しやすい絵本の原画を人類の文化遺産と位置づけ、絵本芸術等に関する資料を収集・保管・展示して教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業をおこない、あわせて、これら資料に関する調査研究をおこなう。
 （「公益財団法人いわさきちひろ記念事業団定款」より抜粋）

■支援会員の輪を広げてください。

ちひろ美術館の支援会員制度について、ぜひお問い合わせください。詳しいご案内やチラシをご希望の方は、希望部数と送付先（お名前、ご住所、お電話番号）をお知らせください。

○申し込み先：ちひろ美術館・東京 支援会員制度担当 〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2
 TEL. 03-3995-0612 FAX 03-3995-0680 E-MAIL chihiro@gol.com

ちひろ美術館・東京
 安曇野ちひろ美術館

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 TEL. 03-3995-0612 FAX 03-3995-0680
 E-MAIL chihiro@gol.com
 〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24 TEL. 0261-62-0772 FAX 0261-62-0774
 E-MAIL chihiroa@seagreen.ocn.ne.jp

<http://www.chihiro.jp/>

2018年10月発行

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 支援会員制度 2017 活動報告書



いわさきちひろ けしの花のなかのあかちゃん 1960年代後半

支援会員のみなさまへごあいさつ

昨年一年間も、ちひろ美術館にあたたかいご支援をいただき、活動を支えてくださり、本当にありがとうございます。おかげさまで2017年は、東京館は40周年、安曇野館は20周年という節目の年を迎え、記念の展示会や講演会をおこないました。なかでも安曇野、東京と両館で開催しました「高畑勲がつくるちひろ展 ようこそ！ちひろの絵のなかへ」は、ちひろの絵を大きく拡大してみせるという、これまでにない視点の展示会として話題となりました。当財団評議員でもあった故・高畑勲さんの芸術への深い見識とちひろへの深い愛情が感じられる展示会でした。また、秋には国立国会図書館国際子ども図書館との共催で「日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで」展を開催し、絵本の専門美術館としての40年の研究成果を発表することができました。国際交流の面では、2018年2月に、アジアではじめてのちひろの原画展を台湾国立歴史博物館で開催したことも、今後にむけての大きな一歩となりました。

今夏、東京駅にある東京ステーションギャラリーで開催した「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」展はご覧いただきましたでしょうか。連日たくさんのお客様がおこしくくださり、「とても良かった!」「1度ではみきれなくて、2回足を運んだ」といった感想が届きました。本当に多くの方々に支えられているのだという実感に、私たちは幸せな気持ちになりました。

いまでも世界には戦火や貧困、暴力にさらされている子どもたちがたくさんいます。

ちひろさんが描いた子どもたちの真っ白な心を大人に伝えたい。平和に、文化を楽しむことができる未来をめざし、美術館の活動をよりよいものにすべくがんばってまいります。これからもちひろ美術館へのご支援をどうかよろしく願いたします。



公益財団法人
 いわさきちひろ記念事業団
 理事長

山田 隆次



ちひろ美術館（東京・安曇野）
 館長

前田 洋子

支援会員の状況 (2017年4月1日～2018年3月31日)

■会員数：有効会員数328人（新規57名、継続271名） ■支援会費：1,991,600円
 <参考データ：2016年度 有効会員数 310人（新規57名、継続253名） 支援会費1,914,697円>
 ■支援会費の使途：絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、絵本の普及、国内外での絵本文化支援の活動等に充たさせていただきます（p.2-4では主な活動を中心にご報告いたします）。ご支援、ありがとうございました。

1. 美術館の設置・運営

■来館者総数 ちひろ美術館・東京：47,479人（前年度比93.9%） 安曇野ちひろ美術館：123,943人（前年度比91.0%）
 両館合計：171,422人（前年度比91.8%）

2. 展覧会

■ちひろ美術館・東京での展覧会

- 3月1日～5月14日 ■<開館40周年記念Ⅰ/日本デンマーク国交樹立150周年>ちひろと世界の絵本画家コレクション わたしのアンデルセン
- 5月19日～8月20日 ■<企画展>デンマークの心 イブ・スパング・オルセンの絵本 1
- 8月24日～11月5日 ■<企画展>奈良美智がつくる茂田井武展 夢の旅人 3
- 11月8日～2018年1月30日 ■<開館40周年記念Ⅳ>ちひろの歩み



■安曇野ちひろ美術館での展覧会

- 3月1日～5月9日 ■<開館20周年記念Ⅰ><企画展>高畑勲がつくるちひろ展ようこそ！ちひろの絵のなかへ 1
- 5月13日～7月4日 ■<開館20周年記念Ⅱ>走る！跳ねる！ちひろ・子ども百態 3
- 7月8日～9月12日 ■<開館20周年記念Ⅲ>いわさきちひろの歩み 4
- 9月16日～11月7日 ■<開館20周年記念Ⅳ>ちひろと旅する信州



■他館と提携する展覧会

- 2018年2月1日～4月22日 台湾国立歴史博物館（台湾・台北） 童・楽ーいわさきちひろ原画展（童・楽ー岩崎知弘經典插畫展）
- ①3月24日～6月12日②6月23日～9月4日③9月15日～11月27日④12月8日～2018年3月5日 越前市武生「ちひろの生まれた家」記念館（福井県） ピエゾグラフィによるいわさきちひろ展
- 11月1日～11月30日 国立国会図書館国際子ども図書館 日本の絵本の歩みー絵巻から現代の絵本まで展

3. 作品・資料の収集、保存、並びに、調査、研究

2017年度、新たにイブ・スパング・オルセン（デンマーク）作品1点を収集 1
 いわさきちひろ=9,522点
 世界の絵本画家（世界33の国と地域・206人の画家）=17,682点
 合計27,204点（2018年3月31日現在）

「いわさきちひろ作品総目録」 2

（制作中、2018年12月中旬完成予定）

4. 教育活動

8月30日 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA
 開館40年・20年記念特別対談 高畑勲×奈良美智 1

■東京館

- 11月12日 開館40年・20年記念 小野明×土井章史対談「日本の絵本の過去・現在・未来」 2
- 10月21日・2018年1月14日 親子で楽しむ文化講座 あかちゃん／子どものための鑑賞会 3（講師：冨田めぐみ・NPO法人あかちゃんからのアートフレンドシップ協会）

■安曇野館

- 5月26日 大町南小学校2年生電車遠足 4
- 6月4日 韓国・上一女子高等学校来館
- 6月17日 のびのび楽しむリトミック体験 5
- 9月28日～10月6日 木曾郡大桑村大桑中学校 スクールミュージアム

5. 普及活動

おはなしの会（絵本の読み聞かせ）の開催

ちひろ美術館・東京「えほんのじかん」計23回・参加者延べ539名 協力：NCBNねりま子どもと本ネットワーク
 安曇野ちひろ美術館「おはなしの会」計34回・参加者延べ804名
 季節ごとの病院院内展示・ワークショップの実施
 東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合産科周産期母子医療センター（1）、国立成育医療研究センター、同センター内子どもホスピス「もみじの家」

6. 国際交流

韓国各地の図書館における、ピエゾグラフィ作品によるいわさきちひろ展（韓国内7カ所の図書館で巡回、入館者数は延べ22,556名） 1

台湾での「日本の絵本の歩み展ー物語る絵の系譜（圖像敘事的藝術：日本繪本演進史 特展）」の開催

- 8月5日～9月10日 国立台湾図書館（台湾・台北） 2
- 10月18日～11月17日 国立台東大学（台湾・台東）

2017年度は、支援会員のみなさまからのご支援のほかに、展示活動や教育活動等で行った事業の一部に対して国や県からの補助金、民間企業からの助成金、篤志によるご遺贈をいただきました。ご支援に深く感謝申し上げます（参考データ：2016年度 3,569,178円・前年比151.3%）。



寄付金・助成金などの内訳

■支援会費（寄付金）	1,991,600円
■その他受取寄付（個人からの遺贈寄付金、他）	1,458,471円
■文化庁	
平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業	1,240,188円
■日本台湾交流協会	500,000円
■AFCC（国際交流基金）助成金	177,900円
■長野県 地域発元気づくり支援金	31,000円
合計	5,399,159円

